

西久保八幡通信

平成19年1月1日発行
(皇紀2667年丁亥)

発行者 八幡神社
〒105-0001
東京都港区虎ノ門 5-10-14
電話 03-3436-2765
www.hachimanjinja.or.jp

亥年の出来事・著名人

平成7年(1995)

- 阪神淡路大震災発生(1/7)
- 地下鉄サリン事件発生(3/20)
- 大相撲九州場所優勝決定戦で若貴対決

昭和58年(1983)

- 東京ディズニーランド開園(4/15)
- 大韓航空機墜撃事件(9/1)
- 三宅島大噴火(10/3)
- 宇多田ヒカル(歌手・1/19生)

昭和46年(1971)

- アポロ14号、月に着陸(2/5)
- マクドナルド日本第1号店、銀座に開店(7/20)
- 花田勝(第66代横綱・1/20生)

昭和34年(1959)

- 皇太子殿下(今上陛下)御成婚(4/10)
- 伊勢湾台風(9/26)
- 山口百恵(元歌手・1/17生)
- 片山さつき(政治家・5/9生)
- 渡辺謙(俳優・10/21生)

昭和22年(1947)

- 日本国憲法施行(5/3)
- 任天堂設立(11/20)
- 衣笠祥雄(元プロ野球選手・1/18生)
- ビートたけし(映画監督・コメディアン・1/18生)
- 星野仙一(元プロ野球選手・1/22生)
- 鳩山由紀夫(政治家・2/11生)
- 森進一(演歌歌手・11/18生)
- スティーブン・スピルバーグ(映画監督12/18生)

昭和10年(1935)

- ヒトラーがヴェルサイユ条約を破棄(3/16)
- ペルシアが国号をイランに改称(3/21)
- 仰木彬(元プロ野球選手・4/29生)
- 美輪明宏(歌手・5/15生)
- 野村克也(元プロ野球選手・6/19)
- ダライ・ラマ14世(チベット仏教最高指導者・7/6生)

大正12年(1923)

- 関東大震災(9/1)
- 池波正太郎(作家・1/25生)
- 三波春夫(演歌歌手・7/19)
- 司馬遼太郎(作家・8/7生)

悠仁親王殿下
御誕生

奉祝

皇室の弥栄と
お健やかな御成長を
お祈り申し上げます



新年、明けましておめでとう
ございます。

当八幡神社につきましては、
日頃より種々ご高配に預かり、
誠にありがとうございます。

さて、昨年、平成十八年を振
り返りますと、年初には皇室典
範改定の機運が高まっております
でしたが、秋篠宮紀子妃殿下の御
慶事の報により、法案の提出は

見送られることとなりました。

三月のワールドベースボールク
ラシックでは日本の代表選手
たちが日の丸の下で一致団結
し、見事世界一に輝き、日本中
が歓喜の渦に包まれました。

この他にも、痛ましい事件・
事故、とりわけ教育の現場にお
いて、様々な問題が発生してい
ることは、誠に嘆かわしく残念

に感じているところでございま
す。

しかしながら、昨年九月六日
の悠仁親王殿下御誕生は、そん
な嫌な世情を吹き飛ばす何より
の出来事でございます。文仁
親王殿下以来、実に四十一年ぶ
りの男子皇族の御誕生は誠に喜
ばしく、皇室の弥栄と、お健や
かなる御成長をお祈り申し上げ
る次第です。

氏子崇敬者の皆様の益々の御
発展と御健勝を御祈念申し上
げ、年頭の御挨拶とさせていただきます。

伊勢神宮

伊勢神宮は正式には「神宮」といいます。「お伊勢さん」、「お伊勢さま」「大神宮さん」などと呼ばれて親しまれています。「神宮」とは、皇大神宮(内宮)と豊受大神宮(外宮)の二つの正宮を中心に別宮、摂社、末社、所管社等の総計百二十五のお社の総称です。

皇大神宮の御祭神は皇室の御祖神であり、また私たち日本人の大御祖の神でもある天照大神です。天照大神は、当初、歴代天皇のそばでおまつりされていましたが、第十代崇神天皇の時代に、皇居から大和の笠縫邑にお遷りしてまつられ、次の第十一代垂仁天皇の皇女・倭姫命が垂仁天皇二十六年(約二千年前)、現在の御鎮座地である伊勢の五十鈴川の川上にお鎮めになりました。

神の御饌都神である豊受大神です。豊受大神は第二十一代雄略天皇二十二年(約千五百年前)に、天照大神のお告げにより度会の山田が原におまつりされました。神宮では常に歴代天皇の御心を体して年間に千数百ものお祭りが行われ、皇室の弥栄、国家の安泰、国民の平安、五穀の豊穰を祈るお祭りが変わることなくおこなわれてきています。



数々のお祭りの中でも神嘗祭は、一年で最も大きなお祭りであり、祭器具等を新しくし、その年の新穀をまず天照大神にお供えし、豊穣を感謝するとともに更なるご神徳をいただくというところにこのお祭りの意義があります。

また、二十年に一度大神嘗祭として執り行われるのが式年遷宮です。神宮には内宮・外宮ともそれぞれ東と西に同じ広さの敷地があり、二十年毎に同じ形の社殿を交互に造り替え、御装束・御神宝をも新調して、大御神に新宮へお遷りいただくお祭

千三百年前に第四十代天武天皇がお定めになり、次の第四十一代持統天皇の四年(六九〇)に皇大神宮の第一回目の御遷宮が行われました。戦国時代には一時の中断もありましたが、二十年に一度繰り返され、来る平成二十五年には六十二回目の御遷宮が行われます。

両正宮のご正殿は唯一神明造という出雲大社の大社造とも、日本最古の建築様式を伝え、ヒノキの素木を用い、切妻平入の高床式の穀倉の形式から、宮殿形式に発展したものです。屋根は萱で葺き、柱は掘立、全て直線的で、屋根の両端にはの干木が高くそびえています。内宮の棟には十本、外宮の棟には九本の鯉木が列んでいます。正殿を中心にして、瑞垣・内玉垣・外玉垣・板垣の四重の御垣がめぐらされています。また、内宮では、干木の先は水平に切られていて、これを内削といい、外宮では干木の先は垂直に切られていて、これを外削といっています。



遷宮行事

遷宮行事には、一昨年、平成十七年に行われた山口祭、木本祭に始まり遷御、奉幣、御神楽に至る三十の祭典・行事があります。その内十二の主要な祭典については、日時等につき「御治定」(天皇陛下のお定め)を仰ぎます。また、伊勢の地元民(旧神領民)を中心とした国民参加の行事として「お木曳き行事」「お白石持行事」が行われます。

- 平成十七年 山口祭
- 木本祭
- 御杣始祭
- 御樋代木奉曳式
- 御船代祭
- 平成十八年 御木曳始式
- 木造始祭
- 御木曳行事(第一次)
- 仮御樋代木伐採式
- 平成十九年 御木曳行事(第二次)
- 鎮地祭
- 平成二十年 杵築祭
- 後鎮祭
- 平成二十一年 宇治橋渡始祭
- 立柱祭
- 御形祭
- 上棟祭
- 檐付祭
- 藁祭
- 平成二十五年 お白石持ち行事
- 御戸祭
- 御船代奉納式
- 洗清
- 心御柱奉建



御木曳初式

御装束神宝読合

川原大祓

御飾

遷御

大御饗

奉幣

古物渡

御神楽御饗

御神楽



遷御

写真提供 神宮司序



遷宮で結ぶ人の輪心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

人生儀礼



我が国では古来より、人生の大きな節目ごとに儀礼が行われてきました。これらは人生儀礼と呼ばれ、さまざまな意味が込められています。人生をますます充実したものとするために、その意味を十分に理解し、神様への感謝の気持ちをもつて過ごしていくことが大事なのではないでしょうか。

るものです
男女三歳で髪置、男児五歳で袴着、女児七歳で帯解と称した御祝いです。

■成人式

「冠婚葬祭」の「冠」に当たる儀礼です。男子の元服、女子の裳着として行われてきたものです。現在は二十歳を迎え、大人としての社会人としての自覚を誓い、ここまでの成長を感謝するものです。

■年祝い

長寿を祝う儀礼で、還暦(六十一歳)・古希(七十歳)・喜寿(七十七歳)・米寿(八十八歳)などがありますが、そのいずれも人生の労をねぎらい感謝すると共に、これからの健康を願うためのものです。もともとの年祝いは厄祓いの儀礼で、皆で祝うことで悪いことを取り除き、めでたくするということの意味がありました。この他にもたくさん的人生儀礼があります。節目を大事に、その時々をよく考えて人生の充実をはかりましょう。

■初宮詣

無事出産の加護に感謝しこれからも健やかに成長するように初めてお宮参りすることをいいます。一般的には男児は三十一日目(又は三十二日目)、女児は三十三日目に行います。

■七五三詣

子供の成長と健康を感謝し、今後の健やかな成長を祈念す

年間行事予定

平成十九年の当八幡神社年間行事は左記の通り予定しております。なお、八月上旬に予定しております氏子各町会の祭礼行事につきましてはおつて日程の詳細をお知らせいたします。

- 二月三日 節分祭
- 二月十七日 祈年祭
- 六月三十日 夏越の大祓
- 八月上旬 祭礼行事
- 八月十三日 前日祭
- 八月十四日 中日祭
- 八月十五日 大祭式
- 十一月二十三日 新嘗祭
- 十二月三十一日 年越の大祓

厄年について

「厄」には、木のふしめの意味があり古来より人生の節目を『厄年』として忌み慎むならわしがありました。厄年とは、災難や障りが身に降りかかりやすい年のことです。厄年を迎える

と、神さまの御加護をいただいで災厄が身に振りかからないよう、神社にお参りして厄祓をします。

男性は、二十五才・四十二才・六十一才、女性は十九才・三十三才・三十七才が厄年にあたり、その前後を前厄・後厄といえます。中でも、男性の四十二才は「死に」、女性の三十三才は「散々」に通ずると

いう語呂あわせから、大厄といわれています。また、古くから四十二才、六十一才という年齢は、社会における重要な年回りとされ、神事においても重要な立場に当たりました。そのため、厄年の「やく」とは、神祭りを行う神役の「役」のことであるともいわれています。その役を行うにあたって神さまに失礼のないよう、飲食や行為を慎み心身を清浄にするためにご祈禱を受けたのがはじまりであるとも考えられています。

厄年に当たる年は肉体的・社会的な節目でもありますので、あらかじめ心の準備をしてその一年を過ごしましょう。

平成19年の厄年

	前厄	本厄	後厄	
男の厄年	24才 昭和59年生 ねずみ	25才 昭和58年生 いのしし	26才 昭和57年生 いぬ	
	41才 昭和42年生 ひつじ	42才 昭和41年生 うま	43才 昭和40年生 へび	
	60才 昭和23年生 ねずみ	61才 昭和22年生 いのしし	62才 昭和21年生 いぬ	
	女の厄年	18才 平成2年生 うま	19才 昭和64年生 へび	20才 昭和63年生 たつ
		32才 昭和51年生 たつ	33才 昭和50年生 うさぎ	34才 昭和49年生 とら
		36才 昭和47年生 ねずみ	37才 昭和46年生 いのしし	38才 昭和45年生 いぬ

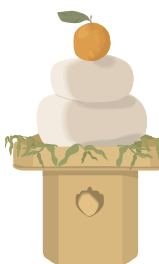
年齢は数え年です。数え年とは、満年齢に誕生日前には二歳、誕生日後には一歳を加えた年です。

「門松」は新年を祝って、家の門口などに飾られるもので、その年の神さまをお招きするための目印であり、また、神さまがお降りになったときに宿られる依代よりしろです。元々は、松・杉・椎・榊といった常緑樹を用いていたようですが、いつしか主として松を用いるようになり、そこから門松と呼ばれるようになりました。地方によつて異なりますが、現在の門松は、竹三本を松で囲み、荒縄で結んだ形が一般的です。なお、最近では一月七日に門松や注連飾しめかざりなどの正月飾りを取り収める場合が多く、正月をひと区切りする意味で、元日から七日までを「松の内」といいます。(十五日までとする場合もあります。)

「鏡開き」とは、正月に神さまへお供えした鏡餅かがみもちを、一月十一日に下げて食べる風習をいいます。鏡餅は刃物で切らずに、手や槌つちで割って食べるのがしきたりですが、刃物を使わない理由としては、餅が固いことと「切る」という言葉を忌むためです。ですから鏡開きというように、「開く」という縁起のよい言葉を使ったのです。もともとは二十日に行われていたのですが、徳川家光の忌日に当たるため、十一日に変更されたといわれています。鏡開きの日には、割った餅を汁粉や雑煮に入れて食べますが、そのように神さまの御霊の宿った餅を食べることで、神さまのご利益をいただくわけです。

「門松」

「鏡開き」




お正月の豆知識